

アパレルの中国シフトに対応

上海市宝山区。市内の中心部から車で一時間ほど離れた同区内の小さな町の一角に、日系企業が運営する物流センターがある。もともと役所の事務所だった施設を改良するかたちで造られたこのセンターでは、検品や「検針」と呼ばれる作業を請け負っている。工場で生産されたアパレル製品などに針が残っていないか、注文通りに縫製されているかなどをチェックする。

ジーンズ、Tシャツ、ベビー服など中国各地で生産されたアパレル製品が毎日大量に運び込まれてくるセンターではこれを中国人女性スタッフ約九〇人で処理している。製品はすべて日本に向けて輸出されるという。主な納品先は「しまむら」や「赤ちゃん本舗」といった大手量販店。出荷量は一日に平均で一萬五〇〇〇枚に達する。

センターを運営しているのは「上海浜神服飾整理有限公司」。ハマキョウレックスと、現地のアパレルメーカー「上海阪神服装貿易有限公司」の共同出資で設立された会社だ。二〇〇二年三月に検品センター事業を開始し、中国に委託生産工場を持つ日系アパレルメーカーから業務を受託している。

もともと中国で生産されるアパレル製品は中国と日本でそれぞれ検針・検品が行われてきた。これを人件費の安い中国のみ一回で済ませて、中国から直接日本の納品先に出荷する体制に改める。それによって検針・検品の作業コストを大幅に削減する。さらに作業工程を一つ減らし納品までのリードタイム短縮を実現することで、顧客企業に貢献するのが狙いだ。

ハマキョウではそれまで千葉県成田市の物流センターでアパレル向けの検針・検品、値札付け業務を請け

第2部 独自モデルでニッチ市場を開拓

やらまいか物流通業《特別編》

ハマキョウレックス 中国式・日替わり班長制度

日本の「しまむら」や「赤ちゃん本舗」などに納品するアパレル製品の検品センター事業で中国に進出した。取扱量の拡大を受けて今年2月には上海市郊外に新センターも稼働。現場作業員の数を従来の倍に増やした。作業生産性を高めるため、日本の物流センターと同様の「日替わり班長制度」の導入を進めていくことにした。

負ってきた。中国製アパレル製品の本格的な輸入が始まった九〇年代後半になると、同センターは「いくらパートさんを増やしても追いつかないくらい仕事が忙しかった」（ハマキョウレックスの小山眞一関東営業部長代理）という。

ところが、二〇〇一年の春シーズンを境に、同センターの検針・検品作業は急激に減り始めていった。この頃から日系アパレルメーカーの多くが上海を中心とした中国・華東地区で検針・検品作業を開始したためだ。アパレル業界では人件費の安い中国で作業を済ませて、日本ではノー検品で得意先に商品を届けるという仕組みが徐々に浸透しつつあった。

このまま放置しておけば、日本での検針・検品の仕事が減っていくのは確実だった。それを食い止めるためにはアパレルメーカーの新たなニーズに対応するしかない。中国からの商品調達を加速させている流通業とのパイプを維持するためにも、中国への進出は避けられなかった。

「流通の川上部分となる中国を抑えておかないと日本国内での物流の仕事が減っていくのは明らか。黙って指をくわえて見ているわけにはいかなかった。中国には世界の工場という顔と、世界最大の消費地という顔がある。今後、中国国内の物流需要も拡大していく。大きなビジネスチャンスがあるから中国に進出させてほしいと経営陣に訴えた」と小山部長代理は中国に検品センターを開設した経緯を説明する。

目標処理数を宣言させる

現在、「上海浜神」ではタキヒヨーや伊藤忠商事など六社の検針・検品作業を請け負っている。年商は約六〇〇万円。年間出荷量は五〇〇万枚に上る。二〇〇二年三月のセンター稼働以来、出荷量は右肩上

